

## あなたに読みやすさを届けるツール

～リーディングトラッカーとリーディングルーペ～

専修大学文学部教授 野口 武悟

リーディングトラッカー、リーディングルーペ(拡大機能付きのリーディングトラッカー)ともに、ディスレクシア(発達障がい)の一種で、読みに困難が生じる状態)や視覚障がい(とくに、視野狭窄や黄斑変性の状態)のある人などに有効な読書補助具として国際的に知られています。高齢化の進展とともに、読みづらさを感じる人は増えていますので、これらの必要性は高まっています。

2016年4月には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が施行され、公立図書館、国公立の大学や学校の図書館を含む行政機関等には障がいのある人への「合理的配慮」の提供が義務化されました。リーディングトラッカーとリーディングルーペは、障がいのある人の読書における「合理的配慮」に他なりません。すべての図書館で常備しておきたいものです。

また、リーディングトラッカーとリーディングルーペは、集中して読書をしたい人などにも愛用されています。中学校や高等学校では、授業で英語の多読教材を読む際にリーディングトラッカーを全生徒に配って使用しているケースもあります。障がいの有無に関係なく、誰もが使えるユニバーサルデザイン(UD)のツールなのです。

使い方はとてもシンプルです。本のページを開いて、文章の読みたい行にリーディングトラッカーやリーディングルーペを当てるだけです。当てた行に視点を集中でき、読みやすくなります。



キハラでは、透明を含む8色のリーディングトラッカー、2色のリーディングルーペを用意していますので、自分の見え方にあった色を選んで使うことが可能です。

図書館では、リーディングトラッカーとリーディングルーペをカウンターなどに常備しておき、障がいのある人に限定することなく、希望すれば誰でも自由に利用できるようなしてほしいと思います。また、多くの人に使ってもらうためにはPRも大切です。

沖縄県恩納村文化情報センターの取り組み(写真)が参考になるでしょう。

### 恩納村文化情報センター(沖縄県)の取り組み



書架の側板をリーディングトラッカーの貸出置き場として有効活用。



ケースを作り、バーコードラベルで管理。



カウンターの上で館内貸出用として設置。

